

めざせ！

# 満点飼い主

あなたの満点度チェックリスト付き



# 満点飼い主とは？

## 🌸 ペットにとっての満点飼い主

ペットを飼うというのは、そのペットの生涯にわたって快適な環境で暮らせるように愛情と責任を持つことです。ただ食餌と水を与えて生かしておくことではありません。私たちが健康で人間らしく生きていくためには、食べ物と水だけでなく快適な住居や友人とのコミュニケーションや娯楽などが必要なように、ペットにもその種類や品種に応じた「必要なもの（ニーズ）」があります。テレビなどのメディアには様々な情報があふれ、中にはペットの本能や習性を正しく伝えていないこともありますから、擬人化や一方的な思い込みではなく、ペットについて正確な知識をもって、ペットのニーズに合わせて適切に扱うことが大切です。自分のライフスタイルやペットと共に過ごす時間や経済的なことなどをよく考えて、「飼いたいペット」よりも「飼えるペット」を選びましょう。

ペットと一緒に暮らしていくことは、互いに影響し合い、いい関係を作っていくことでもあります。ペットを思い通りにしようとしたり、逆に野放しに好き勝手にさせたり、一方的に癒しを求めることではありません。ペットのニーズを満たしながら、人間社会で暮らしていくために必要なしつけをするなど適切な管理をし、またペットの立場になって考えながら、双方にとって暮らしやすいように努力していくことが大切です。

## 🌸 地域社会にとっての満点飼い主

ペットを大切にすぎるあまり、ペットに良かれと思うことが最優先になるのも考えものです。飼い主もペットも地域社会で暮らしている以上、ご近所などの調和を考えなくてはなりません。動物好きの人はつい忘れがちですが、社会には動物が嫌いな人や恐怖感を持っている人もいますし、体の不自由な人はペットが放されているだけで大きな不安を感じることもあります。鳴き声や羽毛、排泄物、臭いなど、飼い主が気づかなくても迷惑を感じている人がいるかもしれません。迷惑と思っているもご近所づき合いの遠慮から言いにくい場合もありますから、「うちのコだけは大丈夫」ではなく、飼い主の方から積極的に気を配ることが求められます。

ペットを飼うことは個人の趣味のひとつですが、不適切な飼い方は、ペットを苦しめるだけでなく社会に様々な影響を及ぼします。人と動物の共通感染症など公衆衛生上の問題や、臭気、鳴き声などの生活上の迷惑など直接的な影響だけでなく、不適切な扱いを受けているペットを見聞きした人への不快感や、子供たちへの教育など間接的影響もあることを忘れないようにしましょう。



**満点飼い主とは、  
ペットの幸せを考えると共に、  
地域社会の調和も考え、  
それに向けて努力していく人です。**

## 📌 ペットに必要なもの：5つのニーズ

- |                          |   |
|--------------------------|---|
| ① 適切な環境                  | 温湿度、設備、用具など、動物にとって快適な生活環境を作る。                           |
| ② 適切な食餌                  | 健康維持のために適切な食餌と水を与える。                                    |
| ③ 通常の行動パターンを表現すること       | 各動物の本能・習性に合った自然な行動が行えるようにする。                            |
| ④ 他の動物と一緒にもしくは隔離して生活すること | 習性に応じて、群れあるいは単独で飼育する。                                   |
| ⑤ 痛み、苦痛、外傷や疾病から守られること    | ケガや病気から守り、病気の場合には十分な獣医療を施す。また、恐怖心や精神的な苦痛（不安）を与えないようにする。 |

# 満点飼い主になるために

## 1 あなたのペットの正しい知識を得る

あなたのペットの種類に合った飼い方や本能・習性について、獣医師などの専門家に相談したり、専門家の書いた本などを読みましょう。また、犬のように同じ種類のペットでも品種によって必要な世話が大きく異なることがあるので、そのペット全般の知識だけでなく、品種についての知識も必要です。

## 2 飼育環境を整える

正しい知識に基づいて、ペットの食餌や生活空間の広さや構造、温度、湿度など飼育環境を整えましょう。犬・猫のように、比較的簡単な工夫で人の住環境に同居できるペットもあれば、専用の設備が必要なペットもあります。

飼育場所は毎日清掃して、衛生を保つようにしましょう。

## 3 毎日よく観察する

ペットや飼育環境を毎日よく観察しましょう。飼育環境でペットがケガをする可能性があるなど問題のある箇所を見つけたら、すぐに改善するようにしましょう。また、ペットの元気さ、食欲、動作、表情などに異常がないか気を配り、普段と違うときは早日に獣医師に相談しましょう。ワクチン接種など病気の予防措置も重要です。明らかな健康異常はなくても、ペットがストレスを感じると、本能・習性と違った行動をしたり、意味のない行動をくりかえす（常同行動）などの異常行動を示すことがありますから、注意して観察しましょう。

## 4 ペットの立場になって考える

飼い主が冷房の効いたレストランで食事をしている間、車の中に取り残されたペットはどうなるでしょう

か。大音響が鳴り響く花火大会に連れて来られたペットはどう思うでしょうか。ペットは話せませんから、飼い主がペットの立場になってどう感じるか考えなくてはなりません。その場合にも、擬人化するのではなく、ペットの本能・習性に基づいた正しい判断が求められます。

また、ペットにも個々の性格や適性があります。ペットと旅行やスポーツ、福祉施設等への訪問活動などをするときは、飼い主だけでなくペットも楽しんでいるか、精神的・肉体的ストレスを感じていないかなど、ペットの行動をよく見てペットの気持ちになって考えましょう。

## 5 地域社会に気を配る

ペットを飼うと、気をつけているつもりでも気づかないうちにご近所などに何らかの迷惑をかけることがありますから、周りへの細やかな気配りはペットを飼う上でとても重要です。自分だけがペットを飼うことを楽しむのではなく、ペットが社会に受け入れられるよう、他人の立場に立って考え、行動することが求められます。また、無計画にペットの数を増やしたり、餌を与えて集めたり、繁殖させてしまうなど、自分で適切な管理ができない数のペットを飼うことは、ペットにとって不幸だけでなく、地域社会に大きな迷惑を及ぼします。

## 6 ペットに関する法令の知識を持つ

ペットに関する法律、条例、規則、条約、基準などで、ペットの飼い主が守らなくてはならないことや努めなくてはならないことが定められています。ペットの種類によっては、飼うにあたり事前に許可が必要なものもあります。知らなかったでは済まされない場合もあるので、あなたのペットについて、どんな法令があるか知っておきましょう。

## 7 ペットの服について

ペットに服を着せたり、アクセサリーをつける飼い主がいます。しかし、衣服を必要とする人間と違い、ほとんどのペットは服を着なくても環境に適應できる体を持っていますから、服を着せると暑すぎたり、体の動きを制限してしまうことになります。ペットに服を着せるのは、雨の日の散歩のレインコートや、高齢や病気で体温調節が上手くできないなど、どうしても必要な時だけにしましょう。アクセサリー類も、舐めたり飲み込んでしまうなどの思いがけない事故につながります。人工的なもので飾るのではなく、ペットの本来の姿を愛することが、飼い主の愛情ではないでしょうか。





# 犬編

めざせ！満点飼い主

# あなたの満点度チェック!!

- 1. あなたのライフスタイルに合ったペット(品種)で、きちんと管理できる頭数ですか？  YES  NO
- 2. 年齢や健康状態に合った食餌を適量与えていますか？  YES  NO
- 3. 新鮮な水をいつも飲めるようにしていますか？  YES  NO
- 4. 毎日のブラッシングと必要なシャンプー・トリミングをしていますか？  YES  NO
- 5. 犬の居場所は常に清潔にして、快適な寝床を用意していますか？  YES  NO
- 6. 犬の居場所は犬が勝手に外に出たり、他人が入って来られるようになっていませんか？  YES  NO
- 7. 毎日犬の健康状態をよく観察し、散歩などの運動をし、一緒に遊んでいますか？  YES  NO
- 8. 犬の行動範囲にケガをしたり、食べたり飲み込んだら危険なものはないですか？  YES  NO
- 9. 犬のボディランゲージを読み取れますか？  YES  NO
- 10. 犬がどう感じているか犬の立場に立って考えていますか？  YES  NO
- 11. 犬の本能・習性を理解し、社会で生活するために必要な基本的なしつけをしていますか？  YES  NO
- 12. 散歩には糞処理道具を携帯し、糞や尿は衛生的に処理していますか？  YES  NO
- 13. 犬を飼うことで近隣に迷惑をかけていないか、いつも気を配っていますか？  YES  NO
- 14. 公共の場所ではリードをつけたり必要に応じてケージなどに入れていますか？  YES  NO
- 15. ワクチン接種や犬フィラリア症の予防薬投与などの病気予防や必要な治療をしていますか？  YES  NO
- 16. 犬の登録をし、毎年の狂犬病予防注射を受けさせ、鑑札と注射済票を首輪に着けていますか？  YES  NO
- 17. 犬から人にうつる病気のことを知り、対策をとっていますか？  YES  NO
- 18. マイクロチップや迷子札など身元を示すものを着けていますか？  YES  NO
- 19. 繁殖を望まない場合は不妊・去勢措置をしていますか？  YES  NO
- 20. 災害に備えた用意をしていますか？  YES  NO

YES 個、 NO 個

## 解説

- 1 は環境や地域社会、犬自身の幸せにかかわる項目です。いたずらに頭数を増やし、管理できる数を超えることのないようにしましょう。
- 2、3 は適切な食生活について必ず守らなくてはならない項目です。
- 4 は手入れについての項目です。犬の体をきれいにするのは飼い主の役目です。
- 5、6 は適切な飼育環境についての項目です。犬がいつも清潔な環境で快適、安全に過ごせるようにしましょう。
- 7、8、9、10、11 は犬と一緒に生活する上で必要な項目です。犬は社会的なコミュニケーションを特に必要とする生き物です。犬の気持ちを読み取って適切に対処すると共に、人と暮らすためのルールを教えましょう。
- 12、13、14 は地域社会で生活する上で必要な項目です。糞の放置や公園などで放すことは、他人の迷惑になるだけでなく、犬を危険にさらすことにもなります。
- 15 は病気の予防に必要な項目です。痛みや病気の兆候を見つけたら、すぐに適切な治療を行いましょう。
- 16、17 は公衆衛生の向上のために飼い主が行わなければならない項目です。
- 18 は犬が万一迷子になったとき、安全を守ると共に飼い主を明らかにするための項目です。
- 19 は適切な繁殖制限についての項目です。不妊・去勢手術は子宮蓄膿症や前立腺肥大等の病気のリスクを減らし、寿命が延びるとの報告もあります。
- 20 は突然の災害の際に、犬の安全を守るための項目です。地域の防災計画を確かめ、避難所でも人に迷惑を及ぼさないよう普段からしつけをしておくなど備えておきましょう。



あなたの結果はいかがでしたか？  
これからも犬のことをもっと勉強して、  
満点飼い主をめざしましょう！



# 猫編

めざせ！満点飼い主

# あなたの満点度チェック!!

1. あなたのライフスタイルに合ったペット（品種）で、きちんと管理できる頭数ですか？  YES  NO
2. 年齢や健康状態に合った食餌を適量与えていますか？  YES  NO
3. 新鮮な水をいつも飲めるようにしていますか？  YES  NO
4. 定期的にブラッシングをして抜け毛を取り除いていますか？  YES  NO
5. 猫に合った快適なトイレを設置して、毎日清掃していますか？  YES  NO
6. 猫の居場所は常に清潔にしていますか？  YES  NO
7. 上下運動できる場所や安全で快適な居場所や隠れ場所はありますか？  YES  NO
8. 毎日猫の健康状態をよく観察していますか？  YES  NO
9. 猫の行動範囲にケガをしたり食べたら危険なものはないですか？  YES  NO
10. 一緒に遊んだりおもちゃを与えていますか？  YES  NO
11. 猫のボディランゲージを読み取れますか？  YES  NO
12. 猫がどう感じているか猫の立場に立って考えていますか？  YES  NO
13. 猫の本能・習性を理解し、一緒に暮らすために必要なしつけをしていますか？  YES  NO
14. 室内で飼っていますか？  YES  NO
15. 猫を飼うことで近隣に迷惑をかけていないか、いつも気を配っていますか？  YES  NO
16. ワクチン接種やノミ・ダニの予防などの病気予防や必要な治療をしていますか？  YES  NO
17. 猫から人にうつる病気のことを知り、対策をとっていますか？  YES  NO
18. マイクロチップや迷子札など身元を示すものを着けていますか？  YES  NO
19. 繁殖を望まない場合は不妊・去勢措置をしていますか？  YES  NO
20. 災害に備えた用意をしていますか？  YES  NO

YES 個、 NO 個

## 解説

- 1は環境や地域社会、猫自身の幸せにかかわる項目です。いたずらに頭数を増やし、管理できる数を超えることのないようにしましょう。
- 2、3は適切な食生活について必ず守らなくてはならない項目です。
- 4は手入れについての項目です。抜け毛を放置すると猫が毛づくろいで舐め取った毛を飲み込み、嘔吐の原因になります。また長毛種は毛が絡まりあうのを防ぐため、定期的なブラッシングが必要です。
- 5、6、7は適切な飼育環境についての項目です。猫がいつも清潔な環境で快適、安全に過ごせるようにしましょう。
- 8、9、10、11、12、13は猫と一緒に生活する上で必要な項目です。猫の気持ちを読み取って適切に対処すると共に、人と暮らすためのルールを教えましょう。
- 14、15は地域社会で生活し、猫の安全を守るために重要な項目です。自由に外出させることは糞尿などで他人の迷惑になるだけでなく、猫を様々な危険にさらすことにもなります。
- 16は病気の予防に必要な項目です。痛みや病気の兆候を見つけたら、すぐに適切な治療を行いましょう。
- 17は公衆衛生の向上のために飼い主が行わなければならない項目です。
- 18は猫が万一迷子になったとき、安全を守ると共に飼い主を明らかにするための項目です。
- 19は適切な繁殖制限についての項目です。猫は生後6ヶ月を過ぎると繁殖できるようになり、繁殖効率のとても高い生き物ですから、自然に任せておくとすぐに増えてしまいます。獣医師と相談して不妊・去勢手術をしましょう。
- 20は突然の災害の際に、猫の安全を守るための項目です。地域の防災計画を確かめ、避難所でも人に迷惑を及ぼさないよう普段からケージを用意し、しつけをしておくなど備えておきましょう。



あなたの結果はいかがでしたか？  
これからも猫のことをもっと勉強して、  
満点飼い主をめざしましょう！

# ペットも歳をとります…高齢ペット介護は満点飼い主だけの特権

## ✿ ペットの老いと向き合う

私たちと同じように、ペットも歳をとります。ほとんどのペットは人よりも寿命が短いので、生活に潤いや安らぎを与えてくれたペットの最期をみとるのは、飼い主の義務ともいえるでしょう。老いたペットをみとるのは飼い主にとって辛く悲しいことです。しかしそれは、不慮の事故や病気でペットを死なせなかったことでもあります。満点飼い主を目指して努力してきた証とも言えるのではないのでしょうか。

ペットが歳をとると、若いころの活発さはなくなりませんが、ゆったりと落ち着いた時間を過ごせるなど、また違った付き合い方があります。老いた時こそ、個々のペットの性格や好みを知り尽くした飼い主の愛情の見せ所ではないのでしょうか。ペットにとって、飼い主の愛情が全てなのでから。



## ■ 人間の年齢に換算した犬・猫の年齢の目安\*

犬・猫の年齢	人間の年齢に換算した年齢	
	大型犬	小・中型犬、猫
1歳	12歳	15歳
2歳	19歳	24歳
3歳	26歳	28歳
4歳	33歳	32歳
5歳	40歳	36歳
6歳	47歳	40歳
7歳	54歳	44歳
8歳	61歳	48歳
9歳	68歳	52歳
10歳	75歳	56歳
11歳	82歳	60歳
12歳	89歳	64歳
13歳	96歳	68歳
14歳	103歳	72歳
15歳	110歳	76歳
16歳	117歳	80歳
17歳	124歳	84歳

\*品種や飼育環境等によって違ってきます。

## ✿ ペットが歳をとると

「高齢」といわれる年齢は、動物種や品種、生活環境などにより異なります。一般にペットが高齢になると、視力、聴力、嗅覚などの感覚が衰え、動きが鈍くなり、睡眠や休憩している時間が長くなります。それと同時に、被毛が白くなる、眼が白く濁る（白内障）、筋肉が衰えて足腰が細くなるなどの外見的变化が見られるようになります。犬など日常的に散歩や運動をする動物では、散歩に行きたがらなかつたり、運動を嫌がることもあります。しかし、病気のせいでも食欲・元気がなくなつたり、動きが鈍くなることもありますから、健康状態の変化を一概に「歳のせい」と決めつけるのではなく、獣医師に相談して適切な診断・治療をする事も大切です。

高齢のペットの世話には、これまで以上に注意を払いましょう。消化機能が低下してきますから、食餌にも気を配り、大きさや固さなどを考慮して、食べやすく栄養バランスのとれた食餌を与えましょう。また、運動機能が低下してきますから、段差を無くすなど生活環境にも気を配り体に無理のない飼育環境を整えるようにしましょう。散歩や運動を嫌がる場合は無理にさせず、体に適度な刺激を与え、気分転換になる程度にしましょう。体温調節機能も低下してきますから、若いころは耐えられた温度変化も老いたペットには大きなストレスになります。外飼いの犬は室内飼いにしたり、寒暖に合わせて敷物や巣材を変えるなど、きめ細かい世話が必要になります。排泄もパターンが変わって頻回になったり、失敗したりするようになることもありますから、状態に合わせて適切に対応しましょう。

高齢のペットはいわゆる認知症の症状を示すこともあります。例えば犬や猫では、異常な食欲、無目的な吠え、飼い主の姿が見えなくなると鳴く、無目的に歩き続ける、不適切な排泄など、様々な症状が現れます。高齢のペットに急激な環境の変化はよくありませんが、生活に刺激があると認知症は進みにくいと言われていています。飼い主とのふれあいを好むペットにはゆったりとしたスキンシップやブラッシングをしたり、一緒に簡単なゲームをするなど体と心にほどよい刺激を与えるといいでしょう。また、頭を使うおもちゃを与えたり、生活にちょっとした変化をつけるなど適度な刺激を心がけましょう。

## ❁ 介護が必要になったときは

老いに伴う様々な症状が現れて、介護が必要になることもあります。特に、人と一緒に生活する犬や猫では重要な問題となってきました。

老い方やそれに伴いどんな問題が出てくるかは、個々のペットによって異なります。必要な対策や介護も異なりますから、問題の原因を探りながらひとつずつ対処していくこととなります。身体的な問題はかかりつけの獣医師とよく相談しましょう。介護グッズもいろいろなものを試してみて、一番合ったものを探しましょう。

介護が必要なペットを抱えた飼い主は、ストレスを感じるのが普通です。外出に制限があったり、夜鳴きなどで寝不足になったり、体力的に疲れてしまったり、献身的に世話をしても誰も認めてくれないことに無力感を感じることもあるでしょう。反応の鈍くなったペットとのふれあいをつまらなく感じたり、完璧な介護ができないことや、もう介護が嫌だと思ってしまうことから自己嫌悪に陥ることもあります。一人で抱え込まず、家族で協力したり、飼い主仲間と情報交換をしたり、獣医師や専門家に相談することが大切です。そして、老いたペットの苦痛が激しく、回復の見込みがないときは、かかりつけの獣医師に相談して安らかに眠らせるのも愛情ある選択肢のひとつではないでしょうか。

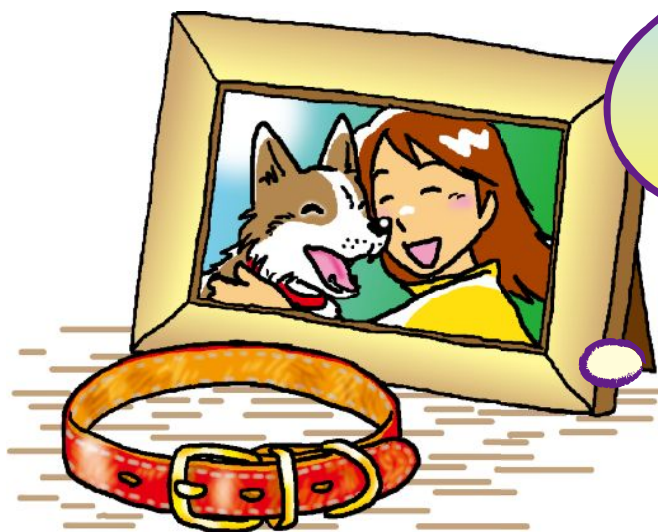
## ❁ 高齢対策は若いときから

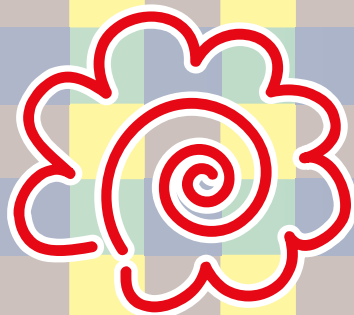
ペットを飼い始めるときや、ペットが若いときは楽しいことばかり考えて、ペットが老いたときのことは考えなかったり、考えたくないものです。しかし、どんなペットも必ず老いるのですから、若いころから先々のことを見通して対策を講じておくのが本当の愛情ではないでしょうか。いざペットが老いて色々な問題が生じてから慌てないように、老いたときのことを想定して心構えをしておきましょう。

老いは逃れられないものとしても、人もペットも健やかに老いたいものです。そのためには、若いときからの生活習慣が重要です。特に食習慣は健康に大きな影響を与えますから、日常からペットの種類やライフステージに合った適切な食餌を適切な量与えると共に、歯の状態に気をつけることが大切です。また、ワクチンや薬で予防できる病気は予防し、不慮の事故や病気の原因となるようなものは生活環境から取り除いておきましょう。



今までペットと積み重ねてきた時間と思い出は、何物にも代えられないあなただけの宝物です。健やかに老い、介護をし、最期をみとって、ペットに満点飼い主だと思ってもらえたら、飼い主にとってこれ以上の幸せはないでしょう…





めざせ！満点飼い主



発行：環境省自然環境局総務課動物愛護管理室  
所在地：〒100-8975 東京都千代田区霞が関 1-2-2  
<http://www.env.go.jp/nature/dobutsu/aigo/>  
平成 21 年 9 月発行

製作：(財)日本動物愛護協会  
編集・デザイン：つしまみかこ

〇お問い合わせやご相談は、お近くの都道府県、政令市、中核市等の担当窓口へ



みんなで止めよう温暖化  
チーム・マイナス6%

地球のいのち、つないでいこう



生物多様性